原著

医療系学部１年次学生における専門職連携教育（IPE）の実践報告

小形晶子[1)] 岩井信彦[1)] 中前智通[2)]
森川孝子[2)] 内海美保[3)] 植村眞知子[3)]
前田光子[3)] 大畑順子[3)] 岸本律子[4)]
１）神戸学院大学総合リハビリテーション学部理学療法学専攻
２）同総合リハビリテーション学部作業療法学専攻
３）同薬学部
４）同栄養学部

[要約] 本論文では、本学の医療系３学部（薬学部、栄養学部、総合リハビリテーション学部医療リハビリテーション学科）１年時生を対象とした、専門職連携教育（IPE）についての報告を行う。また、その教育効果について、学生からのアンケートにより解析を行い検討した。今回実施したプログラムは、各学部学生から構成される班を作り、与えられたテーマに関して班員で協力して調査を行い、収集した情報の共有化と討議により資料をまとめ発表を行う形式を中心として行った。全プログラム終了後、参加学生にアンケート用紙を配布し回答を得て、解析を行った。他職種への理解に加えて、学生の回答からは、自分達の専門性が理解できた、また、他者との意見交換を通じて適切なコミュニケーションをとることの重要性を実感した、ということが示された。プログラム内容について不満足を示す意見においても、その記述回答はむしろ意欲的な意見が多く、IPEへの期待を再確認する結果となった。今後も年次進行に沿った段階的なプログラムの実施など、系統的なIPEが必要と思われた。

キーワード：専門職連携教育、IPE、初年次教育

Ⅰ　はじめに

現在の医療現場では、各専門職種が協力して医療を提供する「チーム医療」が推進されている。厚生労働省では、平成22年５月に「チーム医療推進会議」を設置し、平成22年３月には、「チーム医療の推進について」［１］を取りまとめ、平成23年６月には、チーム医療を推進するための方策として、「チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集」［２］を取りまとめた。

このような状況をふまえ、本学の医療系学部である薬学部・栄養学部・総合リハビリテーション学部医療リハビリテーション学科では、医療に関するそれぞれの専門的な知識・技能の修得とともに、医療・保健・福祉の現場で発生する課題を解決し、チーム医療の担い手となる専門職を養成するための専門職連携教育（Interprofessional Education ; IPE、以後IPEとする）を行おうとしている。その一環として、この医療系３学部合同のIPEを一昨年（2010年度）から行っている。２回目となる今回、この３学部によるIPEをどのように実践しているのかを報告する。また、参加学生へのアンケート調査を今回（2011年度）のIPE実施後に行い、学生に対する効果について検討したので合わせて報告する。

Ⅱ　対象と方法

2012年２月８日（水）に、神戸学院大学ポートアインランドキャンパスにて、半日（12：30～17：30）のプログラムとして2011年度IPEを実施した（図１）。参加学生数は薬学部19名、栄養学部14名、総合リハビリテーション学部理学療法学専攻18名、作業療法学専攻21名の各学部・専攻１年次生、計72名であった。各学部・専攻約２名ずつ計８名を１班とし、グループ活動（SGD；スモールグループデスカッション）を中心に行った。SGDのテーマは「変わりゆく医療現場に対応する医療人の役割－日常の臨床現場から災害時に至るまで－」とした。学生は与えられたテーマに関し、班内で協力して調査を行い、収集した情報の共有化と討議により資料をまとめ、発表を行った。発表会では、医療専門職同士はどこまで業務を協働できるのかを多角的に討論した。

プログラムの最初には、参加者間の緊張を解きほぐすことを目的とした“アイスブレイク”として班対抗の、簡単なゲーム（「伝言ゲーム」）を行った。

プログラムの最後には、大学病院でチーム医療を推進する経験を有する本学教員（医師）が講演を行い、チーム医療の具体的な事例をあげ、多くの医療職種が連携し、情報共有と討議によって、患者の求める医療を実施することの重要性を述べた。

今プログラムの到達目標は、①他者と適切にコミュニケートし、より良い人間関係を築く②医療に関わる職種（特に薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士）の業務を概説できる③グループ活動において自己の考えを積極的に述べる④価値観の多様性を理解し、他者の意見を尊重することができる、とした。

全プログラム終了後、参加学生にアンケート用紙を配布し回答を得た。

プログラム
12:30～12:45　受付開始
12:45～12:55　開会挨拶、担当スタッフの紹介
12:55～13:20　アイスブレイク、名札の作成、自己紹介
13:20～13:55　グループごとに調査、および発表の計画を立てる
13:55～14:05　休憩、教室移動
14:05～15:05　調査、発表資料の作成
15:05～15:20　休憩、教室移動
15:20～17:00　発表会
17:00～17:20　講演「医療人としての役割」
17:20～17:30　閉会挨拶、アンケート記入

図１　当日のプログラム

Ⅲ　結果

回答者数は薬学部（以下、薬とする）19名、栄養学部（以下、栄とする）14名、総合リハビリテーション学部37名（理学療法学専攻（以下、理とする）18名、作業療法学専攻（以下、作とする）21名）の計72名（男性20名、女性52名）で、回答率は100％であった。

「参加前のIPEへの期待度」を尋ねると、「高い」53％（期待度100％、期待度75％）、「低い」47％（期待度50％、期待度25％）であった（図２）。

「IPE終了後の満足度」では「高い」86％、「低い」14％であった（図３）。

「SGDのテーマは難しかったか」との質問では「難しい」と回答した者が94％（とても難しい12％、難しい82％）で、ほとんどの学生がテーマの難し

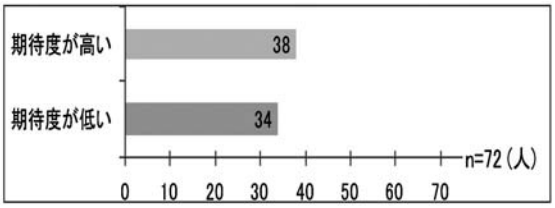

図２「参加前のIPEへの期待度」

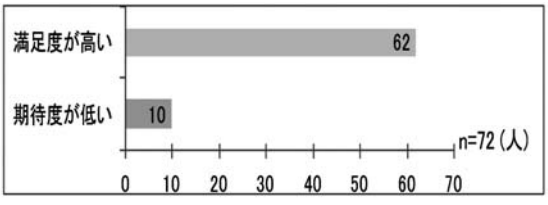

図３「IPE終了後の満足度」

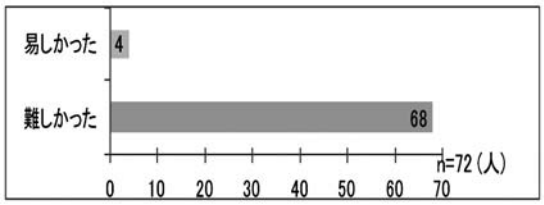

図４「SGDのテーマは難しかったか」

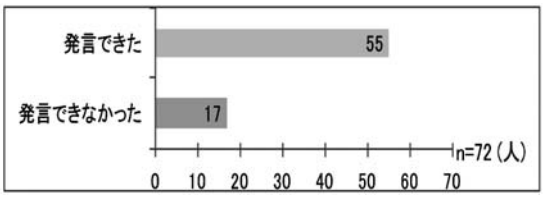

図７「自分の意見を発言することができたか」

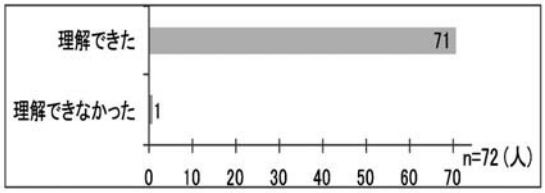

図５「他学部の専門領域について理解できたか」

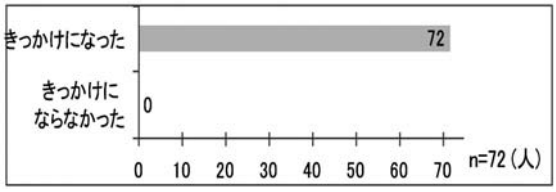

図８「IPEはチーム医療を考えるきっかけとなったか」

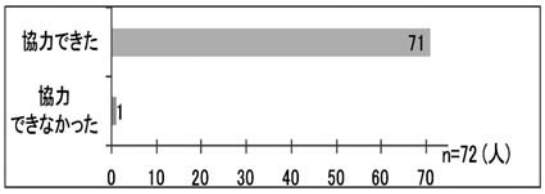

図６「協力してグループ活動ができたか」

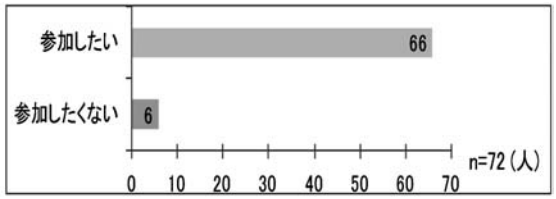

図９「今後､他学部との合同実習に参加したいと思うか」

さを感じていた（図４）。

「他学部の専門領域について理解できたか」との質問では、「大変よく理解できた」31%、「理解できた」68%であり、また、「協力してグループ活動ができたか」との質問では、「大変よくできた」21%、「できた」78%であり、どちらの項目も、ほぼ全ての学生がほぼ全ての学生が理解できた、もしくは協力できたと回答していた（図５、６）。

「自分の意見を発言することができたか」では、「大変よくできた」12%、「できた」64%、「できなかった」24%で、発言できたとする学生が合計86%であった（図７）。

「IPEはチーム医療を考えるきっかけとなったか」との質問では「かなりなった」71%、「なった」29%で全員が好意的な回答をしていた（図８）。

「今後このような他学部との合同実習があれば、参加したいと思うか」との質問では、「とてもそう思う」22%、「思う」70%、「あまりそう思わない」７%、「まったくそう思わない」１%、であり、参加したいという学生が合計92%、参加したくないという学生が８%であった（図９）。

「相手の学部の専門領域（業務）について理解できたことは」という記述式の質問に関しては、『医師からの指示で投薬するだけでなく、健康相談もしているとは知らなかった（理→薬）』『栄養士は栄養管理、栄養指導などを行うということを理解できた、また栄養士は作業療法に関係が深い職種だということが分かった（作→栄）』というような、自分のイメージとの相違点を記載した回答が多かった。

「他学部の学生をみた感想は」という記述式の質問では、『薬学とあまり関連がないと思っていたが、体のつくりを勉強したりしていて接点も多いと感じた（薬→理）』など、他職種との距離が短いという回答が多かった一方で、『いつも一緒に授業を受けるが、私たちと全く異なる知識をたくさん持っていると感じた（理→作）』など、比較的身近な他専攻ではあるが、知らないことが多くあったと記載した学生もいた。また、『自分の

分野のことが１年なのに色々分かっていて、質問にもきちんと答えることが出来ていたのが、すごい（作→栄)』など、他学部の学生に対する尊敬の念を記載する学生がいた。

「今回のIPEを受けて、今後取り組む必要があると思ったことは」という設問では、『自身が身につけようとしている資格についてもっと理解が必要であり、自分がわかるだけでなく人に分かりやすく伝えられないとだめだと思った。そのうえで、他職種とのかかわりの理解も必要だと思った(理)』『自分の専門分野の理解を深めることと、コミュニケーション能力の向上、知識をしっかり身に付ける。チームとして自分の役割を考える(栄)』という回答があった。

「IPE全体を通しての感想」では、『学部や専攻が違うだけで､こんなにも考え方や価値観が違い、始めはびっくりしたけど、自分とは違う考えを知ることができ良かった（薬)』『他の学部の人とコミュニケーションをうまくとれるか不安だったが、実際に話し合いを行うとそれぞれが自分の意見を持っていてとても楽しく活動できた（薬)』というような、それぞれの専門の違いについての気づきや、『１年生ではあるけれども、同じ医療職を目指す者同士なので、それぞれの色があると思う。他の薬学や栄養などの学部の人と交流することで、改めて自分たちの色を知ることができた(作)』というような、他学部と交流することによって、改めて自分の職種の理解につながる回答もあった。また、『今回のIPEにより、今までは知らなった様々な職種の役割やチーム医療の大切さを改めて知ることができた。このような機会はあまりないので，今後ぜひ生かしていきたいと感じている（理)』いうような、今後の学業に対する意欲を述べる学生も多くいた。

今回のプログラムに対する意見としては、『もっとたくさんの時間がほしい、演習実習などで定期的にやるといったカリキュラムがあるとうれしい（薬)』『総合大学に入れてほんと良かったと思えた。機会があれば全学部を巻き込んで合同授業ができたらいいと思った。１回生だけでなく、２回、３回生となってもぜひやってほしいと思った(薬)』『キャンパスが違うため，普段めったに会う機会のない理学・作業療法学科、栄養学部の人たちと話せてよかった。しかし、発表まで時間が足りなかった。もっと他学部の話を聞きたかった(薬)』

『今回、あまり期待はしていなかったが終わってみると考えが変わった。これからチーム医療が重視されていくので、IPEは医療者になる人はすべて、一度は体験したほうが良いと思う（薬)』などがあり、今回のプログラムに対しては、設定時間が短かったことを述べる回答が多かった。また、IPEを継続的に、そして、より多くの学生で実施することの重要性を述べる意見もあった。

Ⅲ　考察

アンケートの結果では、今回実施したプログラムについては好意的な意見が多く、医療専門職を目指す学生にとって今回の取り組みは、相互理解の涵養には有用と思われる。プログラムの開始前では学生は不安を感じているが、終了後は安堵感と達成感があり、そのような状態で回答を求めたので､好意的な意見が多かったと思われるが､「IPE終了後の満足度」では､「満足していない」が14%、「自分の意見が言うことができたか」では､「できなかった」が24%と、否定的な意見も多かった。また、SGDのテーマについては､「難しい」が94%と、ほとんどの学生にとって難しいテーマであったことが分かった。しかし､「お互いの専門領域ついて理解できたか」という設問に関しては､「理解できた」と答えている学生が多いことから、難しいなりにも１年生次での知識や経験をもって、理解できたのではないか、と考える。今回IPEを

行ったのは１年次の学生であり、入学後約１年が経過した時期で、ある程度の専門的知識があると考え今回のテーマを設定したが、どのようなテーマを題材にしてSGDを行うかについては、今回の結果を踏まえて検討が必要であることが強く示唆される。

プログラムへの満足度や設定時間の短さなどに対して、不満足である旨の意見もあったが、記述回答は決して否定的なものはなく、むしろ前向きで発展的な意見を記載していた。これらの学生は向上心や意欲が高く、IPEに対する高いニーズを持っている学生なのではないだろうか。これらのことから、このようなニーズを的確に受け止めてプログラムを設定していく必要があることを再認識した。

今回実施したプログラムでは、実際にお互いの顔を合わせて１つのテーマをもとに協同作業を行うSGDを行ったが、他職種への理解に加えて、自分達の専門性が理解できた、また、他者との意見交換を通じて適切なコミュニケーションをとることの重要性を実感した、ということが学生の回答より示され、今回、我々が到達目標としたことについて、ほぼ達成できたのではないかと考える。

我々が取り組んでいる３学部合同IPEは、現在、各学部ともに単位化されたカリキュラムしては実施していない。大学教育におけるIPEは系統的に年次進行に沿って継続して実施することで、より効果が表れてくるものと思われ、また、学生のアンケートからもそのような形での実施を要望している意見もあった。

今回のようなIPEを継続していくためには、今後も初年次のIPEに取り組んでいくとともに、専門入門分野の演習授業科目としての位置づけが、実施日程の確保など運営面のことに関しても必要であると考える。

Ⅳ　まとめ

・本学の医療系３学部合同のIPEを行った。
・終了後実施したアンケートを解析した。
・「他学部の専門領域について理解できたか」、「チーム医療を考えるきっかけになったか」などの質問には好意的な意見が大半を占めた。
・否定的な意見の学生もその記述回答はむしろ意欲的な意見が多く、IPEへの期待を再確認する結果となった。
・年次進行に沿った系統的なIPEが必要と思われた。

【参考文献】

［１］厚生労働省：チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会　報告書）．2010年３月
［２］厚生労働省：「チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集」取りまとめ．2011年６月
［３］岩井信彦．医療系学部の初年次学生に対する専門職連携教育（IPE）の実践．第５回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム2012：47

The practice report of the Interprofessional Education (IPE) in a healthcare related faculties for the first graders

Akiko Ogata [1] Nobuhiko Iwai [1] Toshimichi Nakamae [2] Takako Morikawa [2] Miho Utsumi [3] Machiko Uemura [3] Mitsuko Maeda [3] Junko Ohata [3] Ritsuko Kishimoto [4]

1) Division of Physical Therapy, Department of Medical rehabilitation, Faculty of rehabilitation, Kobe Gakuin University
2) Division of Occupational Therapy, Department of Medical rehabilitation, Faculty of rehabilitation, Kobe Gakuin University
3) Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University
4) Faculty of Nutrition, Kobe Gakuin University

In this article, we would like to perform a report about the Interprofessional Education (IPE) for the first graders who belongs to each 3 healthcare related faculties (Faculty of Pharmaceutical Sciences, Faculty of Nutrition, Faculty of rehabilitation). In addition, it analyzed by the questionnaire from the students and examined the education effects. The programs carried out this time, performed in the groups which consist of each undergraduate student, focusing on the presentation made from sharing and debate of the information acquired as a result of investigating about the given theme by cooperating in a group member. A questionnaire was distributed to a participating student, after all the ends of a program. Then, we analyzed the answer. In addition to the understanding to other health professions, it was shown from the answer that they were able to understand their specialty, and to have realized the importance of taking the appropriate communication through the exchange of opinions with others. Also in the description which indicates the dissatisfaction about the contents of the program, rather, the reply from the students had many opinions highly motivated, and resulted in reconfirming the expectation for IPE. It seemed that systematic IPE including the enforcement of a graded program along the annual progress was necessary in future.

Key Words : Interprofessional Education, IPE, Education for the first graders